

第 6 1 回電磁界理論研究専門委員会プログラム

日時：平成 17 年 3 月 21 日 17:30-19:00

場所：大阪大学（豊中キャンパス）共通教育本館（イ号館）イ 23 講義室

配布資料

資料 No. 61-1 第 60 回電磁界理論専門委員会議事録（案）

資料 No. 61-2 電磁界理論研究専門委員会委員推薦（案）

資料 No. 61-3 2005 年ソサイエティ大会（北大）課題提案

議題

1. 前回議事録承認（資料 No. 61-1）
2. 平成 17 年度電磁界理論研究専門委員会運営体制について（案）
3. 電磁界理論研究専門委員会委員推薦(案) (資料 No. 61-2)
4. 2005 年英文論文誌特集号受付状況について
5. 2005 年ソサイエティ大会（北大）課題提案（資料 No. 61-3）
6. KJJC-AP/EMC/EMT04（日韓合同研究会）終了報告について

第 60 回電磁界理論研究専門委員会（合同委員会）議事録

日時：平成 16 年 9 月 28 日 20:00-22:20

場所：淡路夢舞台国際会議場（電磁界理論シンポジウム会場）3 階 3 1 1 B 室

出席者：安藤（真）委員長（東工大）***，早川委員長（電通大）**，
石原委員（防衛大）*，下代委員（大阪府立大）*，小見山委員（大阪電通大）*
後藤委員（豊橋技科大）*，白井委員（中央大）*，田中（嘉）元委員長（岐阜大）*，
田中（雅）委員（岐阜大）*，辻委員（同志社大）*，西本委員（熊本大）*，
丸田委員（大阪大）*，吉田委員（北大）*，日向元委員長（日大）*，
松本幹事（阪大）**，服部幹事（千葉大）**，
廣瀬幹事（東大）*，山崎幹事（日大）***，
安藤（芳）幹事補佐（電通大）***，稲沢幹事補佐（三菱電機）*，
一般オブザーバ参加 6 名

*：電子情報通信学会，**：電気学会

配付資料

- 資料 No. 60-1 第 59 回電磁界理論専門委員会（合同委員会議事録）（案）
- 資料 No. 60-2 電子情報通信学会 2005 年総合大会のシンポジウム企画
- 資料 No. 60-3 KJJC-AP/EMC/EMT04（日韓合同研究会）について
- 資料 No. 60-4 2005 IEEE-ACES との技術共催について
- 資料 No. 60-5 2005 年電子情報通信学会英文論文誌 C 特集号(Special Issue)について第
- 資料 No. 60-6 2 回エレクトロソサイエティ運営委員会報告について
- 資料 No. 60-7 電磁界理論研究会 H P デザインリニューアルについて
- 資料 No. 60-8 平成 11～16 年度の電磁界理論研究会関連行事
- 資料 No. 60-9 平成 17 年度電磁界理論研究会関連会議予定
- 資料 No. 60-10 平成 16 年度研究会活動計画報告書
- 資料 No. 60-11 電子情報通信学会 2005 年ソサイエティ大会のシンポジウムの課題

議題

1. 前回議事録承認（資料 No. 60-1）
2. 電子情報通信学会 2005 年総合大会のシンポジウムの課題について（資料 No. 60-2）
3. KJJC-AP/EMC/EMT04（日韓合同研究会）について（資料 No. 60-3）
4. 2010 年の URSI EMT-S 招致活動について
5. 2005 IEEE-ACES との技術共催について（資料 No. 60-4）
6. 2005 年電子情報通信学会英文論文誌 C 特集号(Special Issue)について（資料 No. 60-5）
7. 第 2 回エレクトロソサイエティ運営委員会報告について（資料 No. 60-6）
8. 電磁界理論研究会 H P デザインリニューアルについて（資料 No. 60-7）
9. 平成 16 年度電磁界理論専門委員会及び研究会開催計画(2005 年 1 月開催地が未定)について（資料 No. 60-8）
10. 平成 17 年度電磁界理論研究会開催計画について（資料 No. 60-9，No. 60-10）
11. 平成 17 年度（第 34 回）電磁界理論シンポジウム開催計画について
12. 電子情報通信学会 2005 年ソサイエティ大会のシンポジウムの課題について（資料

No. 60-11)

13.平成 17 年度 Fellow(IEICE)の推薦について

14.次期専門委員会委員長，幹事，幹事補佐の後任候補について

議事

1. 前回議事録承認（安藤委員長，資料 No. 60-1）

- ・ 本委員会で承認された。

2. 電子情報通信学会 2005 年総合大会のシンポジウム課題について（廣瀬幹事，資料 No. 60-2）

- ・ 電磁波計測・イメージングと波動情報処理技術と題して，事務局に申請済み
- ・ EMT シンポジウムでも多数の関連発表あり

3. KJJC-AP/EMC/EMT04（日韓合同研究会）について（廣瀬幹事，資料 No. 60-3）準備状況が報告された。

- ・ 2004 年 11 月 22 日（月），23 日（火）にソウルで開催
- ・ EMT から 10 件の投稿あり
- ・ 10 / 1 に横浜国大の新井先生，ソウルの Park 先生とで調整しプログラムを決定

小規模会議の意義について、自由に意見が交わされた。

- ・ 第 1 回目は手間をかけずに国際化を推進するため、第一種研究会として韓国で開催、その後第一種研究会では制約が厳しいため、現在は独立した合同研究会として実施
- ・ タイ、台湾、中国など同様の会議が多数ある
- ・ 廃止するのは大変であるが、国際会議の数が多く整理統合を考える時期にきている
- ・ 小さな会議は情報発信が不十分であり成果が埋もれる可能性がある。会議を統合する目的で 2001 年に AP-RASC が開催された。しかし、会議開催を望む人もおり、現時点では他の会議と平行して動いている
- ・ 次回は EMT が主導権を握る可能性が高い。現幹事は韓国でよく議論して引き継ぐ必要あり
- ・ AP/EMC/EMT の分け方するのは日本の電子情報通信学会固有の分け方であり、国により異なることも配慮の必要あり。

4. 2010 年の URSI Commission B EMT-Symposium 招致活動について（安藤委員長）

- ・ 2004 年はアレキサンドリアで開催予定であったがテロの可能性があるため、イタリアのピサで開催された
- ・ 2007 年はアレキサンドリアの予定であるため、2010 年に向けて招致活動を実施する。しかし、国際情勢によっては 2007 年に再び交代で日本での開催を要請される可能性もあり
- ・ URSI-B 国内委員会があるが、電磁界理論研究専門委員会の協力が中心となると期待されている。日本への招致は電磁界理論研究専門委員会の長年の希望でもあった。

5. 2005 IEEE -ACES との共催について（安藤委員長，資料 No. 60-4）

- ・ 2005 年 4 月 3 日～4 月 7 日にハワイで開催。応用電磁気学関連の会議。電磁界理論研究専門委員会は技術共催として参加
- ・ 2003 年に同様の IEEE との技術共催の時は日本から 80 人強の参加あり

- ・ 投稿締め切りが12月15日であり,2005年12月の電子情報通信学会英文論文誌特集号に投稿可能.

6. 2005年電子情報通信学会英文論文誌特集号(Special Issue)について(安藤委員長,資料 No. 60-5)

- ・ 平成17年12月に発行予定.投稿締切日は平成17年3月19日.11月の学会誌に赤紙広告が掲載される予定

7. 第2回エレクトロソサイエティ運営委員会報告について(安藤委員長,資料 No. 60-6)

- ・ 国際活動支援補助金として50万程度が認められる.100~150人程度の小さな会議でも十分資格あり.今後活用を考える
- ・ ソサイエティの予算から学生・海外渡航費の援助金が出ている.指導教官に偏りがあるため,1教官に学生2名まで認められる.EMT研として今後積極的に活用していく.
- ・ 理事会で審議をへて,電子情報通信学会主催の国際会議(OFS16)のプロシーディングのCD化がロイヤリティなしで認められた.
- ・ エレソ推進のELEXは電子投稿でWEBに最短で数日で掲載される.また新論文が出るとメール通知される.エレソで始めたが,他のソサイエティの論文も多く投稿され,学会全体への拡がりを見せている.
- ・ 電磁界理論研究専門委員会の活動費として,今後特別な申請なしで10万円が認められることになった.予算作成時期に計画を確認のこと.
- ・ 通信学会の大きな賞を受賞した例などを基に,卓越技術データベースへの登録が進められている.
- ・ エレクトロニクスソサイエティには13の研究専門委員会があり,電磁界理論研究会は第1種研究会で120件程度の発表あり
- ・ 通信学会ではいかに赤字化を食い止めるかが課題になっている.エレクトロニクスソサイエティの収入としては(他ソサイエティも同様であるが),本部からの会費受入のほかに,総合大会収入,ソサイエティ大会収入,技術研究報告収入が多い.
- ・ 毎月の第1種研究会は,日本独自の珍しい活動で,重要である.

8. 電磁界理論研究会HPデザインリニューアルについて(稲沢幹事補佐,資料 No. 60-7)

- ・ エレクトロニクスソサイエティからHP維持管理費補助費として,申請額の約1/3の¥104,000が認許された.予算内で実施するためファイル数を限定しHPのリニューアルを実施する

9. 平成16年度電磁界理論専門委員会及び研究会開催計画(2005年1月開催地が未定)について(資料 No. 60-8)

- ・ 2005年1月は大阪以外で開催する.場所については,幹事団で早急に決めメールで会員に周知する.

10. 平成17年度電磁界理論研究会開催計画について(資料 No. 60-9, No. 60-10)

- ・ エレクトロニクスソサイエティに10月20日(水)までに報告するため,10月の第2週を目処に研究会開催計画を決定する
- ・ 過去データなどを合わせてメール配信するので,開催地の希望があれば執行部にメールして頂く。(# 1)

1 1 . 平成 17 年度 (第 34 回) 電磁界理論シンポジウム開催計画について

- ・ 上記議題と同様 (# 2)

1 2 . 電子情報通信学会 2005 年ソサイエティ大会のシンポジウムの課題について (資料 No. 60-11)

- ・ メールでシンポジウムの課題を募集する . テーマ , 想定される講演者 , キーワードなどを書いて執行部まで連絡いただく (# 3)

1 3 . 平成 17 年度 Fellow(IEICE)の推薦について

- ・ 信学会では会員の約 2 % に Fellow を授与 . 電気学会では約 8 % に上級会員の称号を授与
- ・ 今年度は九州大学の立居場先生が受賞
- ・ 過去の受賞者を WEB に掲載する
- ・ 推薦者がいる場合にはメールでご提案頂き、これを基にそれぞれの委員長が推薦者を決定
- ・ (# 4)

1 4 . 次期専門委員会委員長 , 幹事 , 幹事補佐の後任候補について

- ・ 副委員長のポストを設ける方向で検討する . EMT 研のプレゼンス向上に活用できる可能性もあり。
- ・ 多くの研究専門委員会で副委員長のポストがある
- ・ 他の研究専門委員会では次期委員長としての副委員長の場合が多い . 2 人副委員長がいるケースもある . 委員長退任者が、副委員長へ就任する例もある。研究会活動の継続性の観点から検討する。

1 5 . 今後の特集号の発行について (重要)

- ・ 電磁界理論シンポジウムを中心とした特集号を毎年 , 電子情報通信学会英文誌の特集号から発行する
- ・ サーキュレーションの観点からも同一学会から継続的に発行される方がよい
- ・ 電磁界理論シンポジウム投稿以外の論文も受け入れる
- ・ 電気学会からはテーマを絞って特集号を発行する . 調査専門委員会を積極的に活用し , 特集号に結びつけていく

その他

- 1 6 . 両委員会委員長の提案により、研究専門委員会を、一般に公開の形とした。今後この形態の維持に努めることとした。

1 7 . 技術共催について

単なる名称付与、あるいは EMT 研究会との時期や場所の調整、技術委員としての協力、参加の協力など、種々のレベルでの協力が考えられる。委員会としてのミッションを明確にしたうえ、共催を承認することとした。責任が明確になる

- ・ 運営協力、会議参加も含め積極的な関与が求められる場合には、5 名程度の発起人を立てて技術共催を提案する案が出された。
- ・ 執行部で案を作成しメールで伺う。(当面このルールを試用し、次回運営委員会で審議する。)
- ・ 第 1 回は M M E T か

18．若手研究者の表彰、ネットワークの強化について

- ・ 電磁界理論研究会は特に若手の活躍が必要である。加えて、シニアメンバーが主要な貢献をしている分野もあり、世代の幅の広い活動母体となるよう、執行部で工夫を行うこととした。
- ・ 信学会には学術奨励賞，電気学会には論文発表賞がある
- ・ 個々に投票すると票が割れる．若手研究者が受賞しやすい体制をつくる．
- ・ 若手研究者のリストを作成し情報が共有できるようにする。
- ・ 執行部で案を作成メールで伺う。「たとえば、研究会として、「EMT 若手フォーラム」など、EMT 分野の若手（助手、博士、その他）が直接互いの顔と研究、人柄などを知り合い分野の活動を盛り上げてゆく手助けを行う。シンポジウム、全国大会、研究会、セミナー、国際会議などの場における交流」

19．その他、若手から出されたコメント

- ・ 論文誌の題名を決定するのに苦労している
- ・ 学会数が多く統合して欲しい．いろいろな学生同士と交流を図りにくい
- ・ 通信学会の方が身近に感じる
- ・ 同じ分野を2つの学会でやっているのは不思議である

次回、研究専門委員会予定、1月研究会あるいは3月通信学会全国大会時

アクションアイテム

研究会、シンポジウム開催場所、ソサイエティ大会のシンポジウムの課題、メールアンケート #1-#3

副委員長ポスト新設に関するご意見

平成17年度 Fellow(IEICE)の推薦 候補者推薦メール依頼 #4

技術共催ルール案 メール提案

若手研究者の表彰、ネットワークの強化執行部案のメール提案

研究専門委員会委員の推薦

以上

電磁界理論研究専門委員会 委員推薦(案)

1. 委員 平山 浩一
所属 北見工業大学電気電子工学科 教授
連絡先 〒090-8507 北見市公園町 165 番地
TEL 0157-26-9285 (直通)
FAX 0157-25-1087 (学科)
E-mail hirakc@mail.kitami-it.ac.jp
分野 マイクロストリップ線路、光導波路、量子ドット、
有限要素法、境界要素法
生年月日 1961年9月8日
推薦委員 吉田 則信(北海道大学)

2. 委員 木下 岳司
所属 慶應義塾大学理工学部電子工学科 助教授
(慶應義塾大学大学院理工学研究科 総合デザイン工学専攻)
連絡先 〒223-8522 横浜市港北区日吉 3-14-1
TEL 045-566-1536
E-mail kinosita@elec.keio.ac.jp
分野 光導波路、非線形光学、有機非線形光学材料
生年月日 1959年1月5日
推薦委員 野口 晃(慶應義塾大学)

2005 年ソサイエティ大会（北大）課題提案

ソサイエティ大会（2005 年 9 月 20 日(火)～23 日(金)：北大）

シンポジウムの課題

- (1) 幾何光学、高周波電磁界の基礎に関する新しい知見と工学的応用
Recent advances and engineering applications of geometrical optics and high-frequency electromagnetic field theory.
- (2) エレクトロニクスソサイエティ
- (3) 電磁界理論研究専門委員会
- (4) 提案代表者 安藤 真
〒152-8552 目黒区大岡山 2-12-1
東京工業大学大学院理工学研究科 電気電子工学専攻
TEL :03-5734-2563 ,FAX : 03-5734-2901 ,E-mail:mando@antenna.ee.titech.ac.jp
- (5) 提案要旨
本シンポジウムは、古いがこだわりの残るテーマ、パラドックス、工学的に使われ始めた高周波理論などを、関連の研究者が一同に会し、現状の課題及び今後の技術展望(幾何光学の線積分表現、電磁界の局所性を反映した解析手法、エッジ電流と指向性、規範問題の開拓とエッジコンディション、UTD の破綻と統一的修正法、大規模アレー解析における高周波漸近手法の活用、擬似透過波を抑圧した反射鏡の解析手法、WG モードを用いた誘電体定数の測定と近似解析法、光線近似による屋内伝播シミュレーションなど)について、物理と工学の両面から多角的な討論を行うことを目的に提案するものである。

以 上